

エコロジカルネットワークについて

委員からのエコロジカルネットワーク具体化の提案

2017年2月2日

「荒川太郎右衛門自然再生地区」と「江川下流域」の連携による

荒川エコロジカルネットワーク形成の展開について

●荒川太郎右衛門地区自然再生事業 自然再生全体構想（平成18年）p36

5つの自然再生目標の4番目に位置づけられている

<IV. 荒川エコロジカルネットワークの形成>

●荒川太郎右衛門地区自然再生事業 実施計画書（平成23年）p19

将来実施する施策等に関する検討に位置づけられる。

<周辺地域への広がり (1) エコロジカルネットワークの核の形成>

荒川太郎右衛門自然再生地が上流の荒川ビオトープと下流の三ツ又沼ビオトープ、及び入間川や江川などの自然環境の「核」となるようネットワークをふまえて自然再生地における湿地環境のさらなる保全再生等の検討を進めていく。

●“サクラソウ群落”が荒川太郎右衛門地区自然再生事業の総合的な指標の一つに改めて位置づけられることから、江川下流域とのエコロジカルネットワークの強化に向けて以下の活動を提案したい。

1. 荒川太郎右衛門地区自然再生協議会による江川下流域サクラソウトラスト地への観察会開催。
 - ・太郎右衛門地区へのサクラソウ群落再生を進めるために「たね地」や「生育環境モデル」となるトラスト地の観察会を今後適宜開催し、共通認識を深める。
2. 荒川太郎右衛門自然再生地区内の「サクラソウ群落再生適地」探し。
 - ・太郎右衛門地区内のサクラソウ群落再生地を自然環境の条件と、多くの人々へのアピールのしやすさや盗掘防止等の社会的な条件の両方から検討し、複数カ所の適地選定を行う。
3. サクラソウ群落再生の移植対象となる植物を決めて里親等による「市民参加型の自然再生地づくり」の推進。
 - ・サクラソウだけではなく、ノウルシ、チョウジソウ、ハナムグラ、ノハナショウブ等のふさわしい湿性植物群落の対象種を選び、種子や実生等の採取と育成、再生適地への植栽や管理等を通じた「サクラソウ群落再生地づくり」を市民や学校、企業等の参加による活動として進める。

上記した一連の取り組みを効果的に展開するためには、活動計画の作成が必要となる。

全体構想と実施計画書の関連部分の抜粋

【活動提案の要旨と対応方針（案）】

①協議会によるトラスト地観察会の開催

全体構想の目標で明示されており、江川のみならず、三ツ又沼等の周辺とのネットワーク化の一貫として観察会を実施する。

時期は4月初旬として、年間計画に位置づける。

時期的に実施主体・方法が課題。

②太郎右衛門地区のサクラソウ適地探し

サクラソウは目標種であり、総合的なシンボルとされており、サクラソウの再生は協議会の主旨に合致すると考えられる。

具体的な適地の案と移植方法の計画を立案し、協議会で承認を得る。

協議会への提案は維持管理・環境管理専門委員会から行う。

③里親制度による市民参加型湿性植物群落の再生活動

協議会の合意を得た上で、ふさわしい湿性植物群落の選定と、種子の採取・育成に関する里親制度の仕組みづくりとして、参加者の募集、具体的な行動計画の立案を行う。自然再生地の中に里親制度のフォールドを確保する。

委員からのエコロジカルネットワーク具体化の提案

平成 29 年 6 月 8 日

小川早枝子

平成 29 年 4 月 23 日開催の「第 23 回維持管理・環境管理専門委員会」で提案しました『荒川太郎右衛門自然再生地区と江川下流域の連携によるエコロジカルネットワーク形成の展開について』の意見文書の了解が委員会で得られたと思いますので、下記内容の「活動計画」の詳細を検討し、平成 29 年度内に計画書を作成していただきたく、お願いいたします。

記

『荒川太郎右衛門地区と江川下流域のエコロジカルネットワーク形成活動計画』（案）

活動目標：希少性やアピール性が高い“サクラソウ群落”が、荒川太郎右衛門地区自然再生事業の総合的な指標のひとつに改めて位置づけられたことから、江川下流域の湿地植生をモデルとして、太郎右衛門地区内の適地を対象に“サクラソウ群落の再生”を多くの人たちの協働によって実現し、太郎右衛門地区の魅力の向上と共に、エコロジカルネットワーク形成の強化を図る。

活動概要：少なくとも、以下 4 項目の具体的な活動内容の検討が必要。

1. 太郎右衛門地区自然再生協議会と江川下流域湿地保全活動の連携

サクラソウ・トラスト地等の上尾道路江川下流域湿地帯で取組まれている植生管理や観察会等のイベント活動について、荒川太郎右衛門地区自然再生協議会との協働化を進め、太郎右衛門地区へのサクラソウ群落再生に向けた「たね地」や「生育環境管理モデル」としての共通認識を深める。

2. サクラソウ群落再生適地の選定

太郎右衛門地区内のサクラソウ群落再生対象地について、土壌水分・光環境・既存植生等の自然環境条件の把握を行うと共に、多くの人々へのアピールのしやすさや盗掘防止策等の社会的な望ましい条件の両面から検討し、「サクラソウ群落再生適地」を複数箇所選定する。

3. サクラソウ群落再生への効果的な手順の検討

サクラソウを始め、ノウルシ・チョウジソウ・ハナムグラ・ノハナショウブ等の湿性植物群落のふさわしい再生対象種を選び、「たね地」となるサクラソウ・トラスト地からの種子や実生等の適切な採取方法・時期・量を検討すると共に、再生適地への種子散布やポット苗による植栽とその育成管理等を通じた群落形成手順を明らかにする。

4. エコロジカルネットワーク形成サポーターの参加による推進体制づくり

再生適地への植栽や育成、外来種や競合種対策も含めた植生管理作業等の活動は、市民や学校、企業等の多様な参加に基づく新たな枠組みづくりが必要になると思われることから、労力や資金提供、ポット苗の里親等への協力者・サポーターを積極的に募る推進体制づくりを検討する。

【活動目標】

- ・荒川太郎右衛門地区自然再生地の総合的なシンボルとして『サクラソウ群落』を再生し、魅力を向上させ、エコネット形成強化を図る。
- ・江川下流域の再生の取り組みをモデルとする。

【具体的な活動計画】

- ①江川下流域湿地保全活動との連携
- ②太郎右衛門地区での適地の選定
- ③効果的な再生手順の検討
- ④サポーター参加によるエコネット形成推進体制づくり

※2月の提言内容が具体化され、平成29年度内の計画書づくりと、期限が設けられています。

エコロジカルネットワークの具体化について

エコロジカルネットワーク形成計画の検討方針（案）

○第1段階として平成29年度内の計画を作成します。平成29年度の計画では新たな整備や組織の立ち上げを必要としない、現行実施計画の維持管理の中に活動を位置づけます。

○第2段階として、河川管理者（国）以外も含めた、様々な実施者が主体となった計画作成を検討します。

検討期間	計画について	主な検討事項	備考
第1段階 平成29年度中	①維持管理作業年間計画への組み込み 実施計画書にもとづき作成している維持管理計画（年間計画）の中に、提案のあった内容を先行して盛り込む。 （計画作成関連） ②平成30年度の計画作成 提案内容を盛り込んだ平成30年度の具体的な維持管理活動を記載した、活動計画（案）を作成する。 （計画作成関連） ③見学会の開催 今年の4月8日に実施した、3地区合同見学会の平成30年度も開催する。 （①江川下流域湿地保全活動との連携関連）	①太郎右衛門地区内での適地の選定と、サクラソウ移植と維持管理方針検討 （②太郎右衛門地区での適地の選定関連） 効果的な再生手順検討として、適地の候補を複数設定して比較するなどの計画を検討する。 （③効果的な再生手順の検討関連） ②ハンノキ移植等の連携方法 ※太郎右衛門地区へのハンノキ移植等 ③その他の連携検討	・太郎右衛門地区の維持管理活動として計画する。 ※実施計画書の維持管理としての位置づけのため、活動エリアが限定される。
第2段階 平成30年度以降	①エコロジカルネットワーク形成計画の検討 様々な主体が参加した計画の検討を行う。 持続的な管理のためのサポーター参加の仕組みづくりを検討する。 （④サポーター参加によるエコネット形成推進体制づくり関連）	①計画作成者・協力者等 荒川上流河川事務所、地方自治体（県、市町）、NPO、住民、学識者等 ②対象範囲と活動の連携方法 ③サポーターづくり ④資金確保 等	・国以外の管理区域とのネットワーク形成となり、関係機関との協議が必要。